



「地域包括ケア病棟」新設にあたって

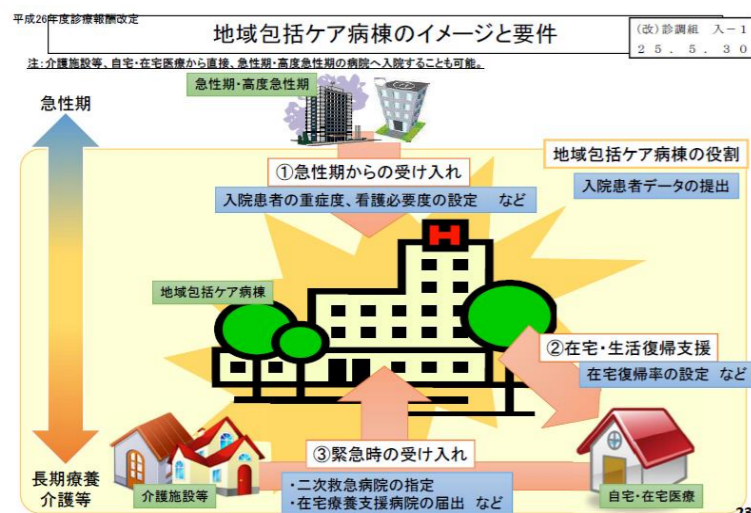
気仙沼市立病院 院長
横田 憲一

平素、円滑な地域医療・介護連携の推進に多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。この度、気仙沼市立病院では、急速に進行する高齢化に伴う医療状況の変化に対応するために「地域包括ケア病棟」を新設することになりました。それに際し一言ご挨拶を申し上げます。

高齢化の進展とともに救急を含めて入院での治療が必要な高齢者が増加しております。治療により病状は改善したものの衰弱などにより元の生活に戻るのが難しくなったり、独居等の理由により退院するのが困難となる方も増え大きな問題となっています。また、高齢者は容易に体調を崩しやすく、在宅生活者や施設入所者を問わず重症ではないものの入院が必要な高齢者救急疾患が増えており、これに対する医療である「サブアキュート医療」の重要性は今後増していくものと考えられています。これからの高齢者の生活は「時々入院、ほぼ在宅」との考えのもと、体調が悪化した際には病院への入院がスムーズに行え、早期に治療を受けて元気を取り戻す、という医療モデルが重要と考えられています。

現在、市立病院では手術などの高度医療を行う「急性期医療」と、病後の体力の回復、退院支援、サブアキュート医療を一般急性期病棟において同時進行で行っておりますが、これからニーズが増えると予想されている後者の医療に、より重点的に、そしてより効率的に対応するために「地域包括ケア病棟」を設置することになりました。それによりこれからの高齢化社会に適応してまいりたいと考えているところです。

ますます医療・介護連携の重要性が増すと思われませんが、皆様とともに力を合わせて市民の皆様を守っていければと考えております。今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



院外からの受入は当面の間できかねますので、受入可能となり次第、改めてお知らせします。



(厚生労働省HPより引用)



スタッフを紹介します



所長 星 達也 (副院長)
副所長 佐藤 昭一 (事務)



【退院支援部門】

専従	小山 よし子 (看護師)
3階西病棟	千葉 祥子 (社会福祉士)
4階東病棟	亀卦川 葉 (看護師)
4階西病棟	熊谷 勝市 (社会福祉士)
5階東病棟	伊藤 芳美 (看護師)
6階東病棟	千葉 祥子 (社会福祉士)、三浦 瑞貴 (社会福祉士)
6階西病棟	戸羽 敦子 (社会福祉士)、岩淵 巧 (社会福祉士)

【入院時支援部門】

専従 三浦 葉子 (看護師)

【医療相談・がんサポート部門】

戸羽 敦子 (社会福祉士)、岩淵 巧 (社会福祉士)

【診療予約・紹介部門】

若林 綾乃 (事務)、菅野 順子 (事務)、小野寺 恵美 (事務)



お知らせ・お願い



(1) 令和4年4月1日より、初診の外来予約時間が変更になりました

初診の方 午前8時30分から午前10時00分まで
→「診療(新患)申込書」に必要事項を記入し、保険証と一緒に新患受付窓口(総合受付内)に提出してください。

再来の方 午前7時45分から午前11時00分まで(変更はありません)
→再来受付機で受付してください。 ※形成外科は、火・木曜日の正午から午後2時まで

なお、曜日によって、受付時間が変更となっている診療科があります。詳細については、当院ホームページに掲載しております「外来診療予定表」をご確認ください。

(2) 受診の際は、医療機関を通して事前予約をお願いします

当院では、受診いただく際に、原則として医療機関を通じ、事前に予約していただくこととしております。事前の予約を行わずに受診する場合は、受診当日に長時間お待ちいただくことがございます。診療予約申込書に、医療機関様からの「患者 診療情報提供書」や検査データ(必要時)を添えて、当センターまでファックスでお申し込みをお願いいたします。なお、令和3年12月より、「診療予約申込書」の様式が更新されました。当院ホームページ「総合患者支援センター」からダウンロード可能となっておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

(3) 令和4年4月1日より、本院はDPC対象病院となりました

当院では、令和4年4月1日より、医療費の算定方法が投薬や検査等の診療費を積み上げる「出来高方式」から、診療費の一部を定額で計算する「DPC方式」※に変更となりました。

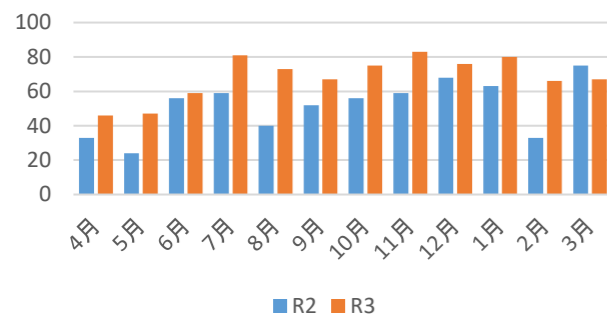
※「DPC方式(Diagnosis Procedure Combination(診断群分類))とは、疾患を診療行為に応じて分類し、各分類で厚生労働省が定めた定額点数で入院医療費の一部を計算するもので、全国で1,757病院が導入しています。(令和2年4月時点) 当該方式の導入により、無駄のない効率的で標準的な医療を提供できるようになり、医療の質の向上につながると見込まれています。

令和3年度の業務実績

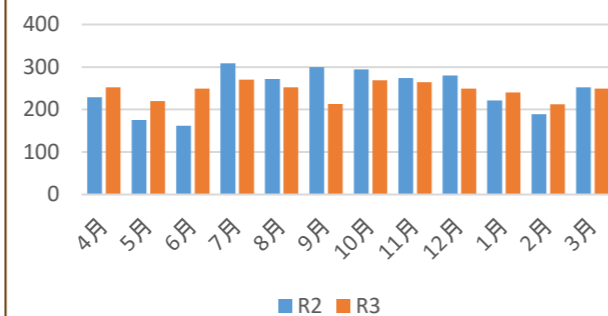
当センターは、令和2年4月1日より地域医療連携室と医療相談室が統合し、開設されました。医療機関や介護施設、ケアマネージャー等の皆様にご協力をいただきながら、患者さんのお力になれるよう支援を続け、開設から2年を迎えることができました。昨年度の業務実績について、3つの業務部門に分け、前々年度の状況との比較を交えながら、ご報告いたします。

1 前方支援業務

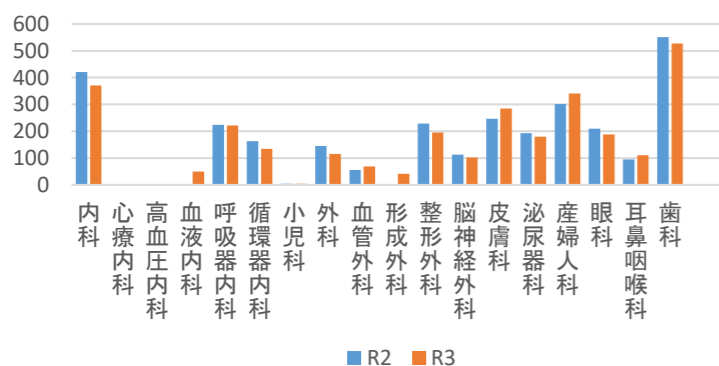
【1】他医療機関への紹介件数



【2-1】紹介受入件数



【2-2】診療科別紹介受入件数



【1】他医療機関への紹介件数については、令和2年度は年間618件/月平均52件、令和3年度は年間820件/月平均68件、と増加しています。

【2-1】紹介受入件数については、令和2年度は年間2957件/月平均246件、令和3年度は年間2939件/月平均245件と、ほぼ変わらずに推移しています。

【2-2】診療科別の紹介受入割合は、概ね歯科18%、内科13%、産婦人科12%、皮膚科10%、呼吸器内科8%です。

2 医療相談業務

医療相談部門は、入院中の患者様への支援の他に、外来・入院中の患者さん・ご家族からの医療費の相談や介護・福祉サービスの利用についてなど、医療に関するあらゆる相談に応じています。

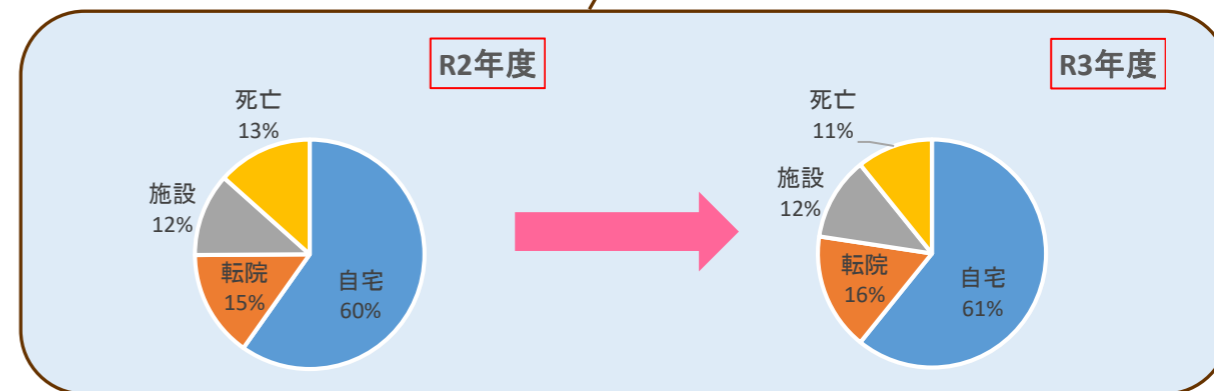
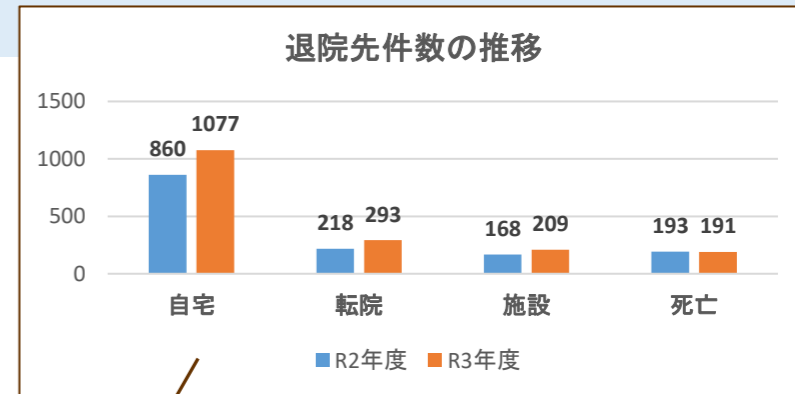
昨年度の相談件数は1993件でした。令和2年度は2134件で、毎年2000件前後で推移しております。傾向としては、医療費や各種助成制度などの社会保障制度に関する相談、介護サービスなど福祉・介護関係についての相談が全体の半数以上を占める結果となりました。

今後とも、患者さんが安心して必要な医療サービスを受けられ、地域での生活を送ることができるよう、関係機関の皆様と連携を深めながら支援してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 入退院支援業務

R2年度	1,519
R3年度	1,909
(1.26倍)	

R2年度	24,825
R3年度	36,913
(1.49倍)	



令和2年8月より実施している「入退院支援加算1」体制の定着と共に、入院早期から介入することで退院後の療養生活をイメージでき、患者さん及びご家族が安心して退院できるよう支援・調整を行ってまいりました。令和3年度からは入院前支援の充実化において、外来・当センターの連携のもと、より早期からの支援介入及び情報共有に努めております。

令和3年度の退院調整の実績は、令和2年度と比較し新規介入者が約1.3倍、延べ支援者数が約1.5倍となりました。転帰先の内訳として大きな変化はみられませんが、自宅退院が介入数の6割を占め人数は令和2年度の1.25倍となっています。施設入所、転院においては、転院数の増加がみられ、急性期を脱した後も慢性的に医療行為を要する方の増加が主な要因と思われます。施設入所も増加傾向にあります。地域の社会資源の現状から、以前にも増して広域的な連携が必要となっており、調整期間の長期化や地域を越えた複数施設への申込み等で患者さんやご家族の負担が増している状況です。それに伴い、当センターの業務量増大も否めず、各連携機関の方々には電話連絡の困難さや業務時間遅くに相談、調整等においてご協力をいただいているところです。加えて、入院時介護支援連携に関しては、当センターでの対面を中心に月平均42件実施できており、コロナ禍においても顔が見える関係を継続できていることで、より正確な情報伝達や意見交換ができ、シームレスな連携に繋がっていると実感しております。このことは関係各所の皆様のご尽力の現れであり深く感謝申し上げます。また、感染対策上、リモートによる介護保険実態調査の機会が増えたことでは、時間効率性のメリットも大きく、今後も進めていきたいと考えております。

「住み慣れた地域で人生の最期まで」という地域づくりにおいて、多くの課題を抱える当地域にあって、「地域から病院、病院から地域へとつなぐ」という総合患者支援センターの役割を果たすため、今後も皆様のご協力をいただきながら、患者さん及びご家族の思いに寄り添い日々努めてまいりたいと思います。

気仙沼市立病院

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢8番地2

総合患者支援センター TEL:0226-22-7100(代表) / FAX:0226-24-2328

診療予約・紹介部門

(直通)TEL:0226-22-7178

入退院支援部門

(直通)TEL:0226-22-8661

